

きずな(絆) No.20

発行:全日本民医連 震災対策本部

《HP新着情報》 ○関連情報・重要なお知らせ～全日本民医連HPに随時掲載、更新中
★★「東日本大震災の被災者への医療、介護・福祉サービスの提供に関する要望書」3/29
★各分野・各地のとりくみ: 歯科部(古川・埼玉)、「苫小牧民報」「長野日報」、兵庫、大阪、山形・・・

暮らし・生活「復興」のために～わたしたちの力を集めて

■地元被害の大きさを実感～医学生と訪問調査:道東勤医協(北海道)

道東勤医協さくらグループでは、25日津波被害の大きかった入舟町に集中訪問行動を行いました。道民医連から医学生5名も来釧、16名で32軒の聞き取りを行い、被害の大きさを改めて実感しました。64歳独居Nさん宅では、水に浸かった畳を外へ。1階は家の内外の違いが分からない状態で2階で暮らしています。74歳Kさんは、床上浸水とともに「車が動かなくなったのに困った」と言います。近所にスーパーなどなく、車がないと買い物にも行けません。また患者さんから、5万円の募金をいただきました。「年金暮らしだけど、こういう取り組みは勤医協さんが一番だと思って」と。募金とともに信頼の言葉が本当にありがたく、みんなで感激しました。(「道東勤医協さくらグループだより」第17号3/26)



■明日への希望の光～つながる命～:埼玉協同病院(埼玉)



3/26 13:58、2845gの元気な産声が分娩室に響きました。福島原発から5km圏内で避難勧告を受け、親類を頼って避難されたKさんが無事、出産されました。避難先で協同病院を紹介され「優しくしてもらえてよかった」「いつ元に戻れるか不安。友達ともバラバラ。でもこの子には強く優しい子になってほしい。みんなに守ってもらった命、感謝の気持ちを忘れないで」と笑顔で話されました。

(「対策本部ニュース」No18 3/28 医療生協さいたま・埼玉民医連)

■福島からの避難者、21名受診:あおぞら診療所(茨城)

取手市には福島から大勢避難されており近くの指定避難所などから、20数名の受診がありました。高血圧や糖尿病など慢性疾患の方が多く、避難生活で風邪を引いたり、不眠や便秘の訴えもあります。保険証のない方も5名、家が流された、原発から5km以のところでとるものもとあえず自宅を離れ、避難所を転々。ここが4ヶ所目という方も。環境の変化とストレスから、便秘・食欲不振の3歳のこどもの受診もありました。乳幼児にとって避難所の生活は大きな負担となっています。(「大震災復旧ニュース」茨城民医連 Vol4 3/29)



＜おしらせ＞*****

○法人・事業所・県連が発行された支援ニュースや新聞報道掲載記事などは、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を8本掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。
